



菱沼八王子神社のひな祭り

巻頭言

■地域のぬくもりを大事に育てよう。（まちぢから協議会 香山 隆）■

菱沼八王子神社の雛飾り展示はこの地域で大事に育ててきた子ども達への愛情を改めて感じる素晴らしい伝統だ。

この地に立ってみると小高い丘の頂上に佇む鎮守様となっていて、最近まで神社を取り囲むように畑が広がり、そこから箱根と富士の雄姿がことのほか美しく眺めることが出来た。

しかし、最近急速な宅地開発により、近代的な住宅が立ち並び、そこには若いご夫婦が子どもたちに囲まれながら楽しそうに過ごす姿が垣間見られるようになった。

この10年、小和田地域は辻堂駅近くの大開発で街並みが大きく変わり、テラスモール湘南が基幹となり、藤沢徳洲会病院の新設、大規模マンションの建築、おまけに辻堂駅の大幅なリニューアルと始発電車の開設などひと昔前とは比較にならない賑わいを感じることができる。

それにつれ新しい住民が目まぐるしい勢いで増えてきている。

見渡せば、今や全国では少子高齢化が地域の担い手不足を騒がれるようになった。

ありがたいことではないか！我が小和田地区は子どもたちの元気な声と若々しい父兄の姿が日に日に大きくなりつつある。

昔から東海道に沿って、本宿・新宿などの賑わいを保ち続けたこの地には、幸いなことに地区運動会、盆踊り、浜降り祭などの多彩なお祭りなどが今でも地域の方々の力で守り続けられている。

地域には家庭ごみの処理や防災のネットワークをつかさどる自治会、困ったときに相談できる社会福祉協議会などの福祉ネットワーク、そして学童と親御さんの支援を受け持つ青少年健全育成推進協議会（略称：推進協）など、沢山の方々が日々活躍している。

新しくこの地に来られた方々もどうか（ちょっとだけ勇気をもって）地域の輪に入り込んでいただきたい それを私たちは待っています。

その手助けに地域の皆様の活動を今回の自治会活動の特集号で紹介することとしました。

さあ、どうぞご参加ください。

■ ごみ収集活動の実際：（新宿自治会）■

新宿自治会は18の班に地域を分けて班長に班内の取り纏めをお願いしています。各班では地域の状況に応じて組を編成し、現在組数は122組あります。組長を中心に回覧板等による情報交換や近隣の皆さんとの交流を行っています。ごみ収集活動の実態として、各集積場所ではカラスいけいけネットのボックス、プラスチック製バケツ、道路上や空き地にネットを使うなど地域の状況に応じた集積方法としています。



カラスいけいけネット



路上にネットで



ペットボトル、ビン・缶

新宿自治会内では燃やせるゴミと燃やせないゴミの集積場所は約177箇所、資源物の集積場所は約53箇所あります。

各班長さんには環境指導員の仕事も兼ねていただき地域でのゴミ（資源物）集積場所に関する相談等に対応しています。

ゴミの有料化以降ではゴミの分別に各家庭が積極的に取り組んでいることから、資源物のゴミが大変多くなりました。

集積場所は以前のままのため、多くの集積場所は資源物であふれている状況があります。燃やせるゴミの集積場所は古くから設置している集積場所が多いのですが、新築の集合住宅や戸建て住宅では集積場所を新しく設置することで増えてきています。一方で、小規模の開発ではゴミの集積場所を新設しないため、近隣の集積場所を利用することになりゴミの量が増える結果となっています。

ゴミの量が増えることで、ネットからはみ出しているゴミ袋をカラスが狙いゴミの散らかしが増えるとともに、有料ゴミ袋を使用しないで出されたゴミは収集されずに残ってしまいます。

カラスによるゴミの散らかしは収集日に同じ場所で続いており、近所の皆さんに散らかったゴミの片付けをしていただいています。集積場所の近隣の皆さんには日頃からネットの設置や掃除をしていただいております、きれいな集積場所としての取り組みに大変感謝しているところです。

集積場所における大量のゴミが大きな課題ですので、1カ所に集まるゴミの量を減らすために集積場所を新設したいと考えていますが、新たな集積場所を作ることができず課題は解決していません。

ゴミ収集については分別が分かりにくいとの声がありますので、茅ヶ崎市のゴミ分別辞典「ごみサク」を紹介し、キーワードを検索欄に入力するとゴミと資源の分け方・出し方について分別方法等を調べることができることをお知らせしています。気持ちよく集積場所を使うことができるよう皆さんで声を掛け合いゴミの出し方が確認できると良いと思います。

ゴミの収集では環境事業センター職員の皆さんがていねいに対応していただいています。

環境事業センター職員の皆さん、ありがとうございます。



ごみバケツを使用



指定ゴミ袋を使わない
ダメですよ！



カラスの被害（1）



カラスの被害（2）



収集方法に適さない出し方（持ってつてくれない）

■東小和田公園の清掃活動（本宿自治会）■

東小和田公園は、緑豊かな公園で、多くの老若男女、子供が訪れる地域住民の憩いの場所と、平成4年に公園の地下に災害時の飲料水兼用貯水槽（100立方メートル水槽）が埋められており、いざという時に頼りになる公園です。

注釈：100立方メートルでは、1日あたり1人3リットルで計算すると約3日と言われてます。

さて、公園清掃は、毎月15日を東小和田公園の清掃日としております。

おおよそ1時間～2時間程度公園内の落ちている枯葉・たばこの吸い殻・空き缶・ビニールごみなどのごみ拾いを行っております。

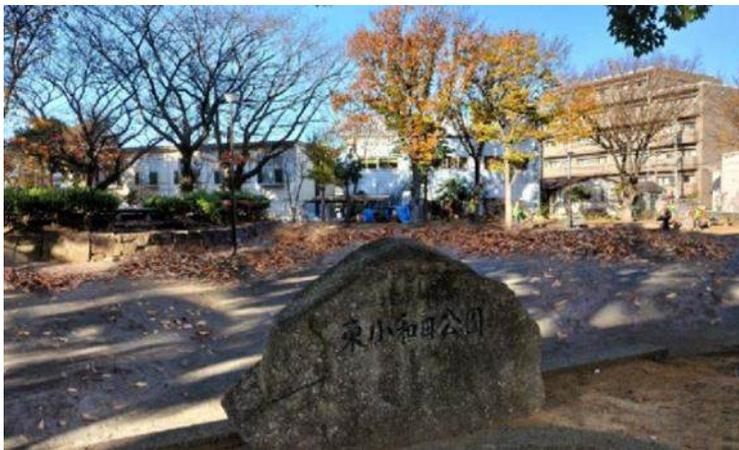
時には、枝の伐採、植木の剪定、排水路の清掃、春には花の植え替えなども行っております。

公園清掃で大変な思いをしたのは、排水路の清掃の時に管路に根が張っていて取り出すのに苦労した事がありました。

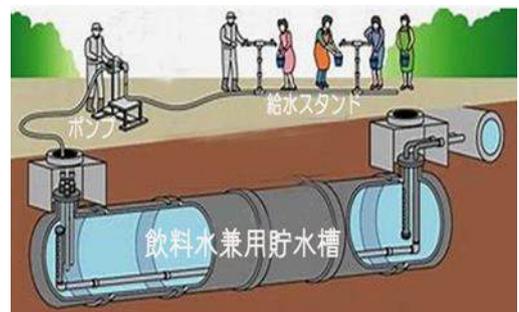
また、枯葉が散る時期は、枯葉を掃いても次から次へと枯葉が落ちて来るので困ります。

今後も毎月一回、清掃活動を実施し、地域の環境美化に微力ながら貢献し、会員の皆様に声掛けを行い、活動を広げて行きたいと思っております。

公園を次世代に良い環境を残していくために自治会として小さなことの積み重ね、継続して行くことが大切と思っております。



東小和田公園全景



貯水槽の概要



排水路の管路から取り出した根（長さ3メートル）



ごみ拾い



枝の伐採



植木の剪定



排水路の清掃

■ 3自治会合同防災訓練 給水訓練 (本宿自治会・赤松自治会・赤松町自治会) ■



集まった各自治会の面々

赤松町にある東小和田公園には前述のとおり災害時の飲料水確保対策として、100立方メートル水槽が平成4年に設置されており、設置後から3自治会合同で、この水を活用するための「3自治会合同防災訓練」として、「給水訓練」が毎年行われています。本宿、赤松町、赤松の3自治会が持ち回りで主催団体となり、年度によっては「給水訓練」のみでなく、水消火器を用いた「消火訓練」、消火栓からホースをつないでの「放水訓練」や「起震車体験」等も行ったことがあります。かなり以前の記憶では、実際に金属のトロ船内で火を炊いて、本物の消火器で消火する訓練を行ったこともありました。開催時期も、初夏の頃が多かったのですが、ここ最近の猛暑の影響もあり、今年度は12月7日(土)に行われました。

今年度は給水訓練のみとし、主催団体からの挨拶の後、訓練開始です。茅ヶ崎市防災対策課員による、給水口であるマンホールの開け方の指導から始まりました。すでに、本宿自治会の防災リーダーたちによって、倉庫から必要な資機材は搬出されていたので、マンホールオープナーを用いて開けました。一年ぶりなので、マンホールの隙間が埋まり、最初はうまく開けられませんでした。防災対策課員の奮闘等で無事に開きました。

最初は、手押しポンプによる汲み出し訓練です。マンホール内の配管と手押しポンプをホースでつなぎ、手押しポンプに呼び水を入れて、まずは大人が作動開始。ちびっ子も参加し、見事に水が出てきました。



給水口



防災対策課員のご協力で無事オープン



手押しポンプの作動



近くの園児が見学に

次に、エンジン付きポンプを使って、おおぜいが一斉に使える蛇口付き給水設備での訓練でした。蛇口の設置とホースの接続終了後、ポンプを起動。エンジンは回っていますが、ポンプが機能せず、水は出ませんでした。

定期点検は業者が行っているとの説明でしたが、水が出ないポンプでは、全く役に立ちません。ただし、翌週の月曜日に防災対策課で再度ポンプを動作させた結果、普通に作動したとのことでしたが、原因ははっきりしませんでした。来年度は、赤松町自治会が当番です



エンジン付きポンプの作動に苦戦



蛇口付き給水管の組み立て

■学童通学時の見守り隊（赤松自治会、風岡 学）■

小和田地区にはいくつかの「学童の見守り」や「パトロール」を行う団体がありますが、2022年度版「茅ヶ崎防犯活動団体ガイドブック」に掲載されている学童向けの団体が4つありました。

「小和田小学校区安全パトロール隊」、「赤松町自治会」、「小和田小学校こわだ会」および、「菱沼小和田自治会サポートクラブ（HKS）」です。

ここでは、平成16年から活動を介している「小和田小学校区安全パトロール隊」を紹介します。設立時の代表者は、赤松町自治会の「渡辺」さんでしたが、ご高齢を理由に退かれ、その後を「風岡」が引き継いでいます。

現在、登録者は22名で、本宿自治会、赤松自治会、赤松町自治会から参加されています。主な活動内容はガイドブックに掲載されている通りです。

（1）登校時（毎朝）

- ① 国道1号線小和田交差点で見守り
- ② 国道1号線赤松陸橋両側で見守り
- ③ 東側校門付近横断歩道で見守り
- ④ チャレパ通りと赤松中央通り交差点で見守り
- ⑤ 赤松中央通りと赤松北通りの横断歩道で見守り

（2）下校時

- ① 毎週月曜日東側校門付近横断歩道で見守りとパトロール
- ② 毎週水曜日東側校門付近横断歩道で見守りとパトロール



神奈川県警察本部長褒賞



各自、市から支給された「交通安全ベスト」と「帽子」を着用し、黄色い旗も活用しています。

代表である、私自身は会社を定年退職した、2019年5月から当時の赤松自治会長であった小宮さんとともに参加しており、ちょうど新一年生で入学した子らが、今年は6年生として卒業していきます。

毎朝、顔を合わせる子供らは百人百様で、一年生の頃からおはようと挨拶しても全く返事を返さずに、ついに6年生になった子もいれば、小学校から中学生になり、中学卒業の日にはきちんと「長い間ありがとうございました」と挨拶をしてくれた子もいました。

また、2年生の時に手紙を渡してくれた子がいました。

下校時に私の名札を見て名前を覚えたようで、手紙には「みまりのまなぶさんへ 毎日みまもってくれてありがとうございます。いつかまなぶさんみたいなみまもる人になりたいです。〇〇より」とありました。

手紙は今でも大事にしまっています。その子はあちらこちらで出会うと、大きな声で「まなぶさん」と声をかけてくれます。ちょっと70歳過ぎのおじいさんには照れくさいですね。

2022年には「小和田小学校区安全パトロール隊」が、神奈川県警察本部長褒賞を受けました。長年の活動はすべて渡辺さんが始めたことなので、警察に連絡して、設立者も一緒に褒賞を受けることとなりました。